

目 次

1. 研究者名簿(前掲)	
2. 分担研究報告書	
研究要旨	3
A. 研究目的	3
B. 研究方法	3
C. 研究結果	5
D. 考察と今後の展望	5
E. 結論	
F. 健康危険情報	6
G. 研究発表	6
H. 知的財産権の出願、登録情報	6

資料

- 資料 ① 研究課題 B における研究結果
- 資料 ② 研究課題 B に関するシンポジウム・報道の写真ならびに報道資料
- 資料 ③-1 研究課題 B で用いた、介入地域における住民の意識調査に用いた質問紙調査票
- 資料 ③-2 研究課題 B で用いた、ランダム抽出された他地域の一般住民の意識調査に用いた質問紙調査票
- 資料 ③-3 研究課題 B で用いた、小学校における小学生・保護者・教師に対する心肺蘇生講習会への意識調査に用いた質問紙調査票

胸骨圧迫のみの簡易型心肺蘇生法を用いた マストレーニングプログラムの地域展開とその効果検証

石見拓¹、西山知佳²、北村哲久¹、村上由希子¹、酒井智彦³、川村孝¹

¹京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 予防医療学分野

²ワシントン大学 ハーバービュー病院前救急救護センター

³社会保険中京病院 救急科

研究要旨：45 分間で胸骨圧迫のみに単純・短時間化した心肺蘇生法を多人数に指導するマストレーニングプログラムを、毎年あたり人口の 5%にあたる 19,000 人を目標に、大阪府豊中市（人口 38 万人）に導入し、研究開始 3 年目の評価を行った。

2010 年 4 月～2011 年 10 月までの期間で、胸骨圧迫のみの簡易型心肺蘇生法を用いたマストレーニングプログラムを 264 回、受講者人数 16,265 名、従来型の心肺蘇生講習会を 404 回、受講者人数 10,384 名、延べ受講者人数 26,649 名（豊中市人口の 6.9%）に対して実施した。地域住民のランダムサンプルを対象とした質問紙調査では、「胸骨圧迫のみの心肺蘇生法でも、人工呼吸をする心肺蘇生と同じぐらい効果があるということは今まで聞いたことがありますか？」という質問に対して、2012 年 1 月では 54.0%が「そう思う」と回答した。2012 年度も引き続き同規模のマストレーニングを展開し、地域住民の救命意識の変化、心肺蘇生実施割合の変化等を評価し、マストレーニングプログラムの地域展開の効果を検証していく予定である。

A. 研究目的

院外心停止例の大規模コホートであるウツタイン大阪プロジェクトのデータ収集システムを用い、地域で胸骨圧迫のみの蘇生法を短時間で多人数に指導するマストレーニングプログラムを普及させ、それによって救命意識、Bystander CPR の実施割合、ならびに救命率が向上するか否かを検証する。

B. 研究方法

研究デザイン：

コホート研究をベースにした前後比較試験および地域間の生態学的研究

対象：

- 1) 対象者：豊中市民 38 万人
- 2) 選択基準：豊中市に在住、在勤の 11 歳以上の市民。

3) 除外基準：心身機能に障害があり、心肺蘇生講習に適さないと判断されたもの。

4) 講習会実施対象者と募集の方法

①小中高校生：学校、教育委員会の協力を得て募集を行う。

②企業、大学、その他の地域住民：企業、大学、短期大学、専門学校、老人クラブ連合会、自主防災組合、市職員、小・中・高校生の父兄等に当該市の広報や Web サイト、新聞、個別訪問を行う。

5) 講習会指導目標人数：

毎年人口 38 万人の 5%にあたる 19,000 人に心肺蘇生講習会を実施する。従来行っていた標準型の心肺蘇生法講習会（人工呼吸を含む、3 時間）約 8000 人に加えて、胸骨圧迫のみの蘇生法と AED の使用法を短時間で指導するマストレーニングプログラムを 11000 人～

12000 人に実施する。

研究実施期間：

2009 年から 4 年間

介入方法：

1) 介入（講習会）の内容：

従来行っていた標準型の心肺蘇生法講習会に加えて、1 人 1 体のトレーニング人形を配備し、『胸骨圧迫のみの心肺蘇生法と AED の使用法』を、45 分間で多人数（20 名～200 名程度）に指導するマストレーニングプログラム（以下、PUSH 講習会）を展開する。

2) 講習会の運営：

①インストラクター：消防の職員に加え、本プロジェクトのために事前にトレーニングを積んだ医師・看護師・救命士。

②講習会内容：

②-1：講習会指導内容：指導内容を統一するため、進行用のビデオ教材を用い、45 分間（学校の授業の 1 コマ分に相当）で胸骨圧迫の方法および AED 操作方法について、指導を行う。受講生 1 人につき 1 体のトレーニング人形を用いる。

②-2：講習会時間割

（前年度報告書参照）

②-3：受講生数：1 回あたり 20～200 名とし、20 名に 1 人の割合で補助役のインストラクターを配置する。

②-4：使用器具：大阪ライフサポート協会の CPR training Box を使用する。

要因と転帰測定：

1) 測定項目

①簡易講習会受講生のデータ：年齢、性別
②心停止患者のデータ（転帰データ）：豊中市で発生した救急隊の関わるすべての院外心停止患者の性別、年齢、普段の生活状態、心肺停止目撃状況、目撃者と心停止患者の関係（家族、友人、同僚、通行人、消防隊員、救急隊

員、救急救命士隊）、心肺停止場所、心停止時の状況、口頭指導、Bystander CPR、Bystander CPR の質、市民による除細動、時間経過（覚知時刻、出場時刻、現場到着時刻、患者接触時刻、隊員による CPR 開始時刻、初回除細動実施時刻）、救急隊到着時の医師による 2 次救命処置、初期心電図波形、二次救命処置、心停止に至った原因、発症 1 ヶ月後生存、発症 1 ヶ月後または退院時の脳機能、救助者の年齢、性別、心肺蘇生講習会（AED を含む）受講歴、
③救命意識の調査

③-1：講習会前後の救命意識の変化（年齢・性別・職業・蘇生教育講習の受講の有無・心肺蘇生実施の積極性・心肺蘇生実施を躊躇する理由・AED 使用の積極性・AED 使用をためらう理由）

③-2：無作為化抽出による地域住民の救命意識の変化（年齢・性別・職業・蘇生教育講習の受講の有無・心肺蘇生実施の積極性・心肺蘇生実施を躊躇する理由・AED 使用の積極性・AED 使用をためらう理由）

2) 測定方法

①受講生のデータ：講習会受講者の年齢、性別のデータは講習会終了後に、Web データベースへ登録される。

②心停止患者のデータ（転帰データ）：転帰データについては、救急隊が日常的に収集している院外心停止データを用いる。

③質問紙調査による救命意識の変化

③-1：講習会受講者に対し、講習会開始前終了直後の 2 回、救命意識に関する質問紙調査を行う。2 回分の調査票を連結させるために、各対象者の識別番号を付記したものを使用する。

③-2：地域で講習会導入前、および導入の 1, 2, 3 年後（地域住民の 5, 10, 15% に対する実施が目標）時点で、地域住民 100～200 名を無作為抽出し、救命意識に関する質問紙調を行う。また、介入地域以外の

一般住民 1200 名を無作為抽出し、救命意識に関する質問紙調を行い、介入地域と比較する。

3) 評価項目の定義

①主要転帰：Bystander CPR の有無

②副次転帰：Bystander CPR の種別、初期心電図波形、市民による AED 使用の有無、CPR 講習会受講の有無、Bystander CPR の質、時間経過（覚知時刻、出場時刻、現場到着時刻、Bystander CPR 開始までの時間、患者接触時刻、隊員による CPR 開始時刻、初回除細動実施時刻）、発症 1 ヶ月後生存、発症 1 ヶ月後の脳機能、救命意識アンケート（年齢・性別・職業・蘇生教育講習の受講の有無・心肺蘇生実施の積極性・心肺蘇生実施を躊躇する理由・AED 使用の積極性・AED 使用をためらう理由）

倫理面への配慮

本研究はヘルシンキ宣言および疫学研究に関する倫理指針を遵守して実施した。集計・解析にあたっては、対象者同定情報は削除し匿名化を行った。なお、本研究は京都大学大学院医学研究科・医学部医の倫理委員会にて承認を得ている。

C. 結果

大阪府豊中市(人口 38 万人)において、2010 年 4 月～2011 年 9 月までの期間で、胸骨圧迫のみの簡易型心肺蘇生法を用いたマストレーニングプログラムを 264 回、受講者人数 16,265 名、従来型的心肺蘇生講習会を 404 回、受講者人数 10,384 名、延べ受講者人数 26,649 名（豊中市人口の 6.9%）に対して実施した（資料① 図 1）。豊中市が掲げている『豊中救命力世界一宣言』を知っている者は、2012 年 1 月では 22.0%であった（資料① 図 3-1）。

受講者の内訳は、一般市民が 28%、続いて中学生が 13%、小学生が 9%、高校生 8%、教員 7%、会社員 7%であった（資料① 図 3-2）。

豊中市の地域住民を対象とした質問紙調査では、「もし見知らぬ人があなたの目の前で倒れていて意識がないようなら、あなた自ら心肺蘇生法を試みようと思いますか？」という質問に対して、2012 年 1 月では 40.5%が「そう思う」と回答し、2011 年 7 月に施行した他地域における同質問では 32.6%であった（資料① 図 3-2）。「胸骨圧迫のみの心配蘇生法でも、人工呼吸をする心肺蘇生と同じぐらい効果があるということを今まで聞いたことがありますか？」という質問に対して、2012 年 1 月では 54.0%が「そう思う」と回答した。2011 年 7 月に施行した他地域における同質問では 46.9%であった、（資料① 図 3-3）。

また小学生 5・6 年生を対象にした 45 分簡易講習会の前後での救命意識調査では、「もし知らない人が目の前で倒れたら、声をかけて、119 番通報など、何か出来ることをしようと思いますか？」という質問に対して、「そう思う」との回答は、講習前の 50.2%から講習後には 75.2%と上昇した（資料① 図 4）。

D. 考察と今後の展望

胸骨圧迫のみの簡易型心肺蘇生法を活用することで、従来の方法と比較して、大幅に多くの住民に対し、心肺蘇生講習会に参加することが可能となった。これは、これまでに多くの地域で行われてきた心肺蘇生講習会実施規模の数倍におよび、従来 3 時間を要する標準的な心肺蘇生法講習会のみでは達成することのできない規模であり、簡易型心肺蘇生法を活用することで、地域への心肺蘇生法普及を進めることが可能であることを実証した貴重な地域介入モデルである。2011 年 10 月には約 3000 人もの受講者に対して大規模な講習会を実施した（資料②）。これは一度に行った心肺蘇生講習会では日本最多のものである。

対象の 16%に到達すると物事がブレークスルーするという普及理論に基づき、3 年間

で16%、毎年人口の5%に対して心肺蘇生講習を提供することを目標としているが、2011年末時点で約7%であり、まだその目標には達成できていない。しかし、介入地域において簡易型講習会は従来型講習会の約2倍に達している。これは簡易型講習会が地域に浸透しつつあることを示唆していると思われる。

シンポジウムの開催など(資料②)、地域における心肺蘇生普及のための啓発活動にも力を入れており、今後、研究期間中に目標とする豊中市人口の16%に講習会を実施できるように、心肺蘇生法講習会の普及を継続し、地域住民の救命意識の向上、心肺蘇生実施割合の向上などの効果検証を進めていく予定である。

また、45分簡易講習会は小学生の救命意識を高めることが本研究から明らかになった。小学生に対してどのような心肺蘇生講習会を行うべきか議論は多くあるが、この簡易の講習会で胸骨圧迫の体験し、命の大切さを学ぶ

ことは、学校教育の一つのモデルとなると思われる。

E. 結論

マストレーニングの普及効果については、現在も進行中のため未確定。

45分簡易講習会は小学生の救命意識を改善するのに役立つと考えられる。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

研究課題B 資料1

- 図1 累積CPR講習受講者割合の経過
- 図2 CPR講習受講者の内訳
- 図3-1 救命意識アンケート(地域)
- 図3-2 救命意識アンケート(地域)
- 図3-3 救命意識アンケート(地域)
- 図4 救命意識アンケート(小学校)

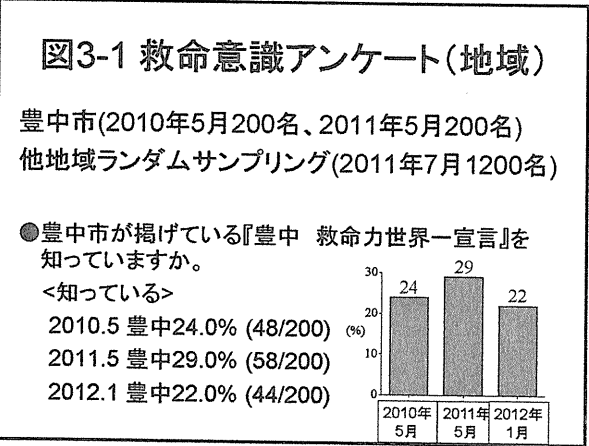
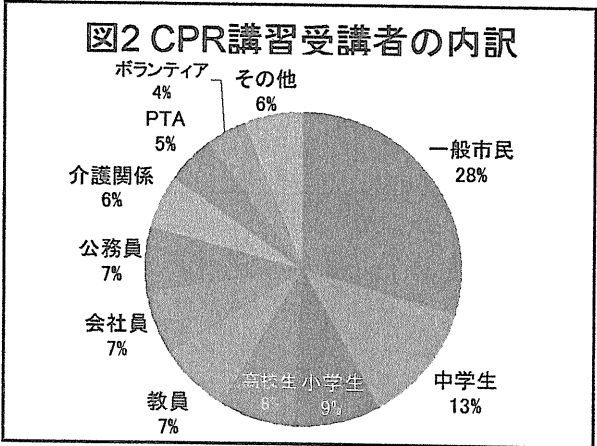
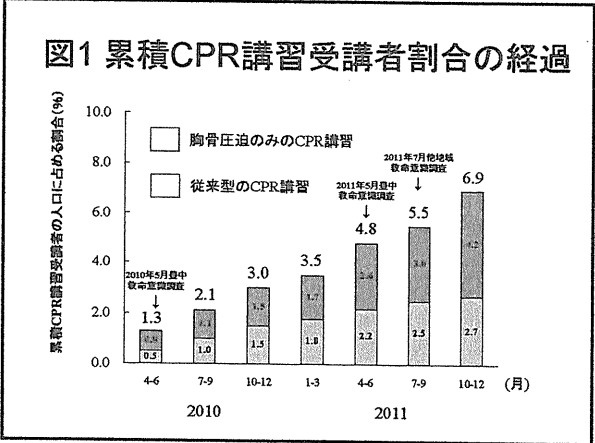
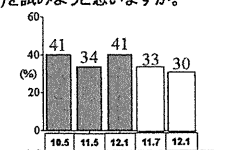


図3-2 救命意識アンケート(地域)

●もし見知らぬ人があなたの目の前で倒れていて意識がないようなら、あなた自ら心肺蘇生法(人工呼吸や心臓マッサージ)を試みようと思いませんか。

<そう思う>

2010.5 豊中40.5% (81/200)
 2011.5 豊中34.0% (68/200)
 2012.1 豊中40.5% (81/200)
 2011.7 他地域32.6% (391/1200)
 2012.1 他地域30.1% (361/1200)



●もし心臓マッサージだけで良いならばやってみようと思いませんか。上記質問で、「そう思う」と答えなかった人への質問。

<そう思う>

2010.5 豊中35.3% (42/119)
 2011.5 豊中33.3% (44/132)
 2012.1 豊中33.6% (40/119)
 2011.7 他地域20.3% (159/782)
 2012.1 他地域20.5% (171/835)

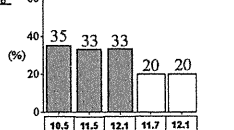
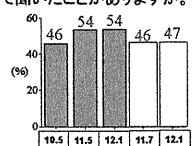


図3-3 救命意識アンケート(地域)

●胸骨圧迫(心臓マッサージ)のみの心肺蘇生法でも、人工呼吸をする心肺蘇生法と同じくらい効果があるということをご今まで聞いたことがありますか。

<はい>

2010.5 豊中46.0% (92/200)
 2011.5 豊中53.5% (107/200)
 2012.1 豊中54.0% (108/200)
 2011.7 他地域45.7% (548/1200)
 2012.1 他地域46.9% (563/1200)



●実際に目の前で人が倒れたらAEDがあれば使用してみようと思いませんか。

<そう思う>

2010.5 豊中47.5% (94/200)
 2011.5 豊中46.0% (92/200)
 2012.1 豊中48.5% (97/200)
 2011.7 他地域36.9% (443/1200)
 2012.1 他地域39.4% (473/1200)

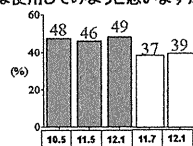
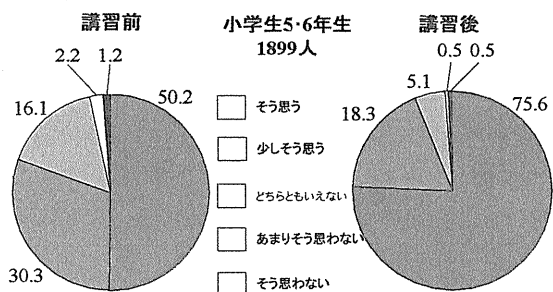


図4 救命意識アンケート(小学校)

45分簡易講習2010年5月～2011年4月

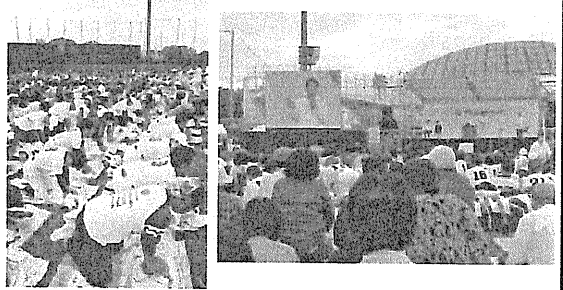
Q:もし知らない人が目の前で倒れたら、声をかけて、119番通報など、何かできることをしようと思いませんか?



- 研究課題B 資料2
- ・“救命力世界一” チャレンジ防災フェスタ
 - ・救命力世界一シンポジウム
 - ・簡易CPR講習会 (DVD贈呈式)

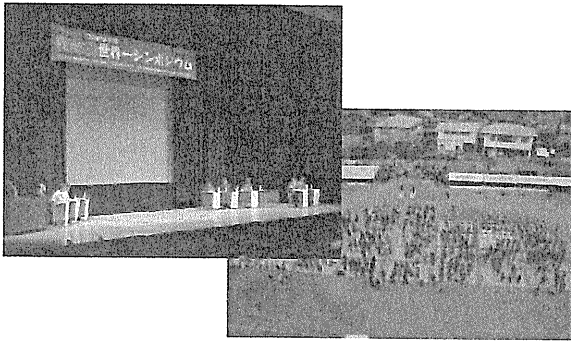
“救命力世界一”チャレンジ防災フェスタ

平成23年10月15日(土) 大阪府豊中市の豊島公園



子どもから大人まで3250人(一度に行った救命講習の受講人数で日本最多)

救命力世界一シンポジウム



簡易CPR講習会(DVD贈呈式)



資料①-1 介入地域住民アンケート

救命意識に関するアンケート（地域抽出）

このアンケートでは皆様の救命意識に関する調査をさせていただきたいと思えます。本研究は厚生労働省科学研究として行われています。この調査結果については、完全に秘密を守ります。これから得られる情報は調査結果の分析のためにのみ使用し、いかなる場合にもあなたの個人的なことが外にもれることはありませんのでありのままにお答え下さい。よろしくお願いします。

問 1 もし見知らぬ人があなたの目の前で倒れていて意識がないようなら、あなた自ら心肺蘇生法(人工呼吸や心臓マッサージ)を試みようと思えますか。(1つだけ〇印)

- 1 そう思う
- 2 まあそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり思わない
- 5 そうは思わない

(問 1 で 2~5 を選択された方にうかがいます)

問 1-1 あなたが心肺蘇生法をためらう一番の理由は何ですか。(1つだけ〇印)

- 1 何をしたらいいか分からない
- 2 口をつけて人工呼吸はしたくない
- 3 救急隊を待ったほうがよいかから
- 4 うまくいかなかった時が心配
- 5 心臓マッサージはしたくない
- 6 その他 ()

(問 1 で 2~5 を選択された方にうかがいます)

問 1-2 もし心臓マッサージだけで良いならばやってみようと思えますか。(1つだけ〇印)

- 1 そう思う
- 2 まあそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 あまりそう思わない
- 5 そう思わない

問 2 胸骨圧迫(心臓マッサージ)のみの心肺蘇生法でも、人工呼吸をする心肺蘇生法と同じぐらいの効果があるということを、今まで聞いたことがありますか。(1つだけ〇印)

- 1 はい
- 2 いいえ

問3 実際に目の前で人が倒れたらAEDがあれば使用してみようと思いますか。
(1つだけ○印)

- | | |
|---|------------------|
| 1 | 思う |
| 2 | まあそう思う |
| 3 | どちらともいえない |
| 4 | あまり思わない |
| 5 | 思わない |
| 6 | AEDを知らないので答えられない |

(問3で2~5を選択された方にうかがいます)



問3-1 あなたがAEDの使用をためらう一番の理由は何ですか。(1つだけ○印)

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1 AEDを正しく使えるかどうか不安 | 4 誤ったことをして、自分に危険が及ぶことが心配 |
| 2 誤ったことをして、倒れている人を傷つけるのが心配 | 5 その他 |
| 3 AEDは医師や救急隊員など専門の人にやってもらったほうがいい | () |

- 年齢: 歳
- 性別: 男 女
- 職業: 医療従事者、教職員 公共交通機関、会社員、自営業、
学生、主婦、その他()
- 心肺蘇生の現場に居合わせたことがありますか: はい いいえ
- 今までに実際に心肺蘇生実施したことはありますか? はい いいえ
- 今まで心肺蘇生教育講習を受けたことがありますか? はい いいえ

(「はい」を選択された方にうかがいます)

- 胸骨圧迫(心臓マッサージ)のみの講習会でしたか? はい いいえ
- 『豊中 救命力世界一宣言』をご存じですか? はい いいえ

 ご協力ありがとうございました。

テーマ:「救命に関する意識」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 もし見知らぬ人があなたの目の前で倒れていて意識がないようなら、あなた自ら心肺蘇生法(人工呼吸や心臓マッサージ)を試みようと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 そう思う → 問2へ
- 2 まあそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 あまりそう思わない
- 5 そう思わない

【問1で「2」～「5」とお答えの方に】

問1-2 もし心臓マッサージだけで良いならばやってみようと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 そう思う
- 2 まあそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 あまりそう思わない
- 5 そう思わない

【すべての方に】

問2 胸骨圧迫(心臓マッサージ)のみの心肺蘇生法でも、人工呼吸をする心肺蘇生法と同じぐらいの効果があるということを、今まで聞いたことがありますか。(○は1つだけ)

- 1 はい
- 2 いいえ

【すべての方に】

問3 実際に目の前で人が倒れたら AED があれば使用してみようと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 そう思う
- 2 まあそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 あまりそう思わない
- 5 そう思わない
- 6 AED を知らないので答えられない

しんぱいそせい講習(こうしゅう)会アンケート

しんぱいそせい法について、今、みんなが思っていること、感じていることをアンケートに答えてもらいます。結果は他の人に伝えないので、自分が思っている通りに答えてください。

問 1 もし知らない人が目の前で倒れたら、声をかけて、119 番通報など、何かできることをしようと思いませんか。(1つだけ○印)

- 1 そう思う
- 2 まあそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 あまりそう思わない
- 5 そう思わない
- 6 分からない

問 2 もし知らない人が、目の前で倒れていて意識(いしき)がないときは、心肺蘇生(しんぱいそせい)法(人工呼吸や心臓マッサージ)をしようと思いませんか。(1つだけ○印)

- 1 そう思う →これを選んだ人は問 3 へ進んで下さい。
- 2 まあそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり思わない
- 5 そうは思わない
- 6 しんぱいそせい法を知らないので分からない。

(問 2 で 2～5 を選んだ人は答えて下さい。)

問 2-1 心肺蘇生(しんぱいそせい)法をするかどうか悩む、一番の理由は何ですか。(1つだけ○印をつけて下さい)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 何をしたらいいか分からない | 5 心臓マッサージはしたくない |
| 2 口をつけて人工呼吸はしたくない | 6 その他() |
| 3 救急隊を待ったほうがよいから | |
| 4 うまくいかなかった時が心配 | |

問 3 目の前で知らない人がたおれたら AED を使おうと思いませんか。(1つだけ○印)

- 1 思う
- 2 まあそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり思わない
- 5 思わない
- 6 AED を知らないので答えられない

(問 3 で 2～5 を選んだ人は答えて下さい。)

問 3-1 AED を使うかどうか悩む、一番の理由は何ですか。(1つだけ○印)

- | | |
|------------------------------------|-----------------|
| 1 AED を正しく使えるかどうか不安 | 4 間違ったことをするのが心配 |
| 2 あやまったことをして、倒れている人を傷つけるのが心配 | 5 その他() |
| 3 AED はお医者さんや救急隊員などの人にやってもらったほうがいい | |

講習前のみ

- 年齢: 歳
- 性別: 男 女
- 今までに心肺蘇生(しんぱいそせい)法をどこかで習ったことはありますか?
 はい いいえ

講習後のみ

問4 もし、目の前で家族が倒れたら心肺蘇生(しんぱいそせい)法(人工呼吸や心臓マッサージ)をしたり、AEDを使おうと思いますか。(1つだけ○印)

- 1 思う
- 2 まあそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり思わない
- 5 思わない

問5 本日の講習(こうしゅうかい)会の感想を教えてください。

問5-1 みんなが心肺蘇生(しんぱいそせい)法の勉強をしたほうがいいと思いましたが?

- 思った まあそう思った あまり思わなかった よく分からなかった

問5-2 胸骨圧迫(きょうこつあっぱく)の方法は分かりましたか?

- 分かった だいたい分かった ほとんど分からなかった 分からなかった

問5-3 AEDの使い方は分かりましたか?

- 分かった だいたい分かった ほとんど分からなかった 分からなかった

問5-4 心肺蘇生(しんぱいそせい)法を家族にも伝えようと思いますか?

- 思う まあそう思う あまり思わない よく分からなかった

問5-5 講習(こうしゅう)を受けた感想を自由に書いてください。



ご協力ありがとうございました。



心肺蘇生法講習会アンケート（保護者向け）

今回、「命の大切さ」を子供たちに伝えるために、心肺蘇生法を学ぶ授業を実施しました。つきましては、今後この授業をよりよくするために保護者の皆さまのご意見を伺いたと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

問 1 今回、学校の授業の一環で心肺蘇生法の授業で指導したことをどう思われますか？
(1つだけ○印)

- | | |
|---|-------------|
| 1 | 良いと思う |
| 2 | まあ良いと思う |
| 3 | どちらともいえない |
| 4 | あまり良いとは思わない |
| 5 | 良いと思わない |

問 2 子供が心肺蘇生法を学ぶことに問題があるとすればその一番の理由は何ですか。
(1つだけ○印をつけて下さい)

- | | | | |
|---|---------------------------|---|------------|
| 1 | 危険な場面に出くわすかもしれない | 5 | 学業を優先してほしい |
| 2 | 大人が対応するべきである | 6 | その他 |
| 3 | 救急隊など専門家に任せるべきである | (|) |
| 4 | この学年では、命の大切さだけ教えるだけで十分である | | |

問 3 今回、子供と心肺蘇生法の授業について何か話をされましたか？

- | | | | |
|---|----|---|-----|
| 1 | はい | 2 | いいえ |
|---|----|---|-----|

問 4 (問 3 で 1「はい」を選んだ方はお答え下さい。)

子供の反応はどうでしたか？(1つだけ○印をつけて下さい)

- | | | | |
|---|-------------------------|---|-----|
| 1 | 胸骨圧迫や AED の使い方に興味を持っていた | 5 | その他 |
| 2 | 兄弟や友達に心肺蘇生法の話をしていました | (|) |
| 3 | 心肺蘇生法を行うことに不安を感じていました | | |
| 4 | 特に感想はなかった | | |

問 5 お子様が心肺蘇生法を学ばれたことを聞いて、どう思われましたか？

(1つだけ○印をつけて下さい)

1 自分も心肺蘇生法講習会を受けよう／受けたいと思った	4 その他 ()
2 子供の影響を受けて心肺蘇生法講習会を受けた	
3 特に興味は持たなかった	

問 6 今後も授業の中に、心肺蘇生法を取り入れていくことに同意していただけますか？

1 はい	2 いいえ
------	-------

問 7 その他ご意見を自由に書いてください。

()

このアンケートを記入して下さっている方のことについて教えて下さい。

- 年齢: 歳
- 性別: 男 女
- 子供の学年: 小学生・中学生・高校生(いずれかに○を) _____ 年生
- 今までに心肺蘇生法を習ったことはありますか? はい いいえ
- 家族・身内の中で心停止になった方はおられますか? はい いいえ
- 心停止現場に遭遇したことがありますか? はい いいえ
- 実際に心肺蘇生法を実施したことはありますか? はい いいえ



ご協力ありがとうございました。



問3 授業時間外に生徒と心肺蘇生法の授業について何か話をされましたか？

1 はい 2 いいえ

問4 講習会を受けた生徒達の反応はどうでしたか？(1つだけ○印をつけて下さい)

1 胸骨圧迫や AED の使い方に興味を持っていた 5 その他 ()
2 心肺蘇生法を行うことに不安を感じていた
3 熱心に聞いていた
4 全く興味がなさそうだった

問5 生徒に心肺蘇生法を指導することについてどう思われますか？

(1つだけ○印をつけて下さい)

1 今後も継続して教えていくべきだと思う 4 その他 ()
2 実技は教えることは見直すべきだと思う
3 教えるべきではない

問6 その他ご意見を自由に書いてください。

[]

このアンケートを記入して下さっている先生方のことについて教えてください。

- > 年齢: 歳
> 性別: □ 男 □ 女
> 今までに心肺蘇生法を習ったことはありますか? □ はい □ いいえ
> 家族・身内の中で心停止になった方はおられますか? □ はい □ いいえ
> 心停止現場に遭遇したことがありますか? □ はい □ いいえ
> 実際に心肺蘇生法を実施したことはありますか? □ はい □ いいえ



ご協力ありがとうございました。



平成23年度厚生労働科学研究費補助金
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究
(H21-心筋—一般—001)
(研究代表者 丸川征四郎)

平成 23 年度研究報告

分担研究報告

AED 内部情報の活用を促進する方策に関わる研究

研究分担者 小菅 宇之
横浜市立大学附属市民総合医療センター
高度救命救急センター 准教授

平成 24(2012)年 3 月

目 次

1. 研究者名簿	
2. 分担研究報告書	
研究要旨	4
A. 研究目的	4
B. 研究方法	5
C. 研究結果	6
D. 考 察	9
E. 結 論	10
F. 健康危険情報	10
G. 研究発表	10
H. 知的財産権の出願・登録状況	10
3. 資料	
資料 1、 茨城県自動体外式除細動器（AED）設置施設登録制度実施要項	
資料 2、 AED 内部データの保存に関する説明書	
資料 3、「スポーツ施設における AED 使用時の AED 内部データの解析の 1 例」 (第 36 回日本救急医学会発表スライド)	

研究者名簿

研究分担者	小菅 宇之	横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター 准教授
研究協力者	浅利 靖 丸川 征四郎	弘前大学医学部 救急・災害医学 教授 医療法人医誠会 医誠会病院 病院長